

- 木材などは奈良盆地外の東山間部などから供給 供給元・製材址などを発掘調査
- c. 鉄等の手工業品 原料を移入し、鉄器生産を主体に多様な製品を作り自家供給を目指す
- d. 塩 大阪湾岸、紀ノ川河口（紀伊）、河内湖東岸から移入 東からは入らない
- e. 牛馬 ストロンチウム・酸素同位体比による産地同定 炭素同位体比による食性分析  
他で繁殖した馬を移入し（一部は東日本から）、雑穀を含む給餌で飼育 牛は多くない

#### 4. 博多湾岸ー比恵・那珂遺跡群

**那津官家**（なのつのみやけ、536年～）の推定地 古墳時代前期まで日本列島有数の人口  
その後断絶し、6世紀後半～7世紀に再び人口集中 那津と那珂川

##### 1) 機能分化

**倉庫群** 大きめで群集 三本柱塀で嚴重に遮蔽したものがある 6世紀後半～7世紀  
分置・併存 最高クラスのミヤケの収容量 道（陸運）と那珂川（水運）を意識した配置  
官衙 4ヶ所・5個を確認 道沿いに3（～2）個が併存 瓦葺建物を含むものあり  
**道** 弥生時代末～古墳時代前期の道を踏襲 長さ約2km・幅6～7m、側溝  
**港** 最大規模の倉庫群近くに**那津**推定地 小字名「中津」（那珂津） 河口まで1.5km  
**運河** 那珂川と三笠川をむすぶ

**市?** 小字名「長市」（那賀市・那珂市） 推定地は道路と運河の交点に近い

一般住居 発展期（6世紀後半～7世紀前半）には既調査だけで住居約200・井戸約80

##### 2) 外部依存（必需物資の需給）

- a. 食糧 各地から穀物を集積 周辺は弥生時代以来、水田農業の技術先進地
- b. 木材（木製品） 木材資源は枯渇し外に依存 供給元はよくわからないが、再生力の違いや植生・樹種の好み
- c. 鉄等の手工業品 手工業生産の痕跡は薄い 須恵器・鉄器・瓦などを外から  
周辺地域内で生産を分担 いくつかのミヤケで物資供給を支えあう体制
- d. 塩 6～7世紀の需給はよくわからないが、常識的には博多湾岸
- e. 牛馬 資料は少ないが馬の埋葬土壌 兵馬・駄馬として馬が集められた?

#### 5. 3地域の比較

##### 1) 都市化の段階

###### ア. 5世紀

大阪上町台地北端と、南郷遺跡群などの奈良盆地内の数地域で人口集中

両地とも交通の要地 複雑な地形条件に合わせて開発するには、計画性は必須

当初より手工業生産は、工房を足下に設けて自家供給を目指す（渡来系技術者）

上町台地北端では水運で食糧を運ぶ 広大な周辺低地から様々な有用植物

どの地域も動物質食糧の役割は、水産物以外は低い

馬・牛が周辺の牧から供給され始める

###### イ. 6世紀

人口集中地に比恵・那珂遺跡群が加わる

上町台地・博多湾岸ではミヤケによる殖産や兵站の整備が人口増に拍車 鑿丁（くわよぼろ）という土木の精鋭たち

工房群の漸増、倉庫域や官衙域の固定化など、機能分化が順調に進行  
木材は、樹の再生力が追い付かず、域外に求める

ウ. 6世紀末～7世紀前半

上町台地北端では、内政（小郡）、外交（大郡・館）、開発（屯倉中枢）の拠点、手工業の工房群が離れつつ相互に連関

比恵・那珂遺跡群でも、内政（筑紫大宰）、外交（大郡・筑紫館の前身）、開発・兵站（官家中枢）の拠点は上町台地北端と対比でき、3個程度への官衙域の分化と対応

南郷遺跡群は衰退し、奈良盆地では6世紀後葉以降、飛鳥周辺に人口が集中

人口を支える食糧の増産をめざし、大規模な水田化などの後背地のさらなる開発が進展

## 2) 都市化の特徴と動因

- ・古墳時代は諸機能の拠点が領域内に分散し、都市的景観が形成されにくかったというのが一般的理解　難波には津や交易拠点があり、都市が生まれた可能性があるが、例外とされる
- ・上町台地北端などの都市化に伴う機能分化と外部依存の進行は、一步一步、漸進的
- ・少なくとも5世紀以降は、上町台地北端、比恵・那珂遺跡群、奈良盆地内の数地域など、平行して都市化が進行　これらはきわめて特異な例外ではなかったと考える
- ・南郷遺跡群などの奈良盆地と上町台地北端の外部依存の進み方は、基幹物資やその調達方法がよく似る　人口集中を支える手法は、地域を越えて一定の方向性と共通点がある
- ・機能分化では、上町台地北端と比恵・那珂遺跡群では、港・運河・河川・道などを基に、内政・外交・開発（・兵站）拠点などの諸機能を配した内部構造がよく似る　比恵・那珂遺跡群が上町台地北端の小型版で、同じ考えの設計者によるかの如く
- ・初期の都市は自然環境に大きく依存しており、物資の需給や機能の分化は、建物跡などの遺構や、土器などの考古遺物だけでは見えてこない　丹念な古環境復元や微細遺物などの活用で実相に近づける　目的的な発掘調査の錬磨や研究法の改善により、都市化の実態はより明らかになると予測
- ・奈良盆地の布留遺跡群や和爾・森本遺跡はじめ、ほかでも同様の社会経済の変化と、それに適合した集住形態があった可能性は高い
  
- ・上町台地北端と比恵・那珂遺跡群は国家レベルの体制整備、南郷遺跡群は地域の大勢力の家産整備のため、新規に開発　生産力の伸張と、必需物資の流通量の拡大という社会経済的要請が、5～7世紀の日本列島の都市化の大きな動因
- ・計画主体が目指したのは、生産・流通（分配）・消費の一連の流れの整備　周辺開発とインフラ・流通網などの社会資本の整備により、人口集中地を支える経済体を形成　そのために自然環境とその変化を積極的に利用
  
- ・都市化の過程は、普遍性ととも地域ごとに微妙な個性　自然環境の影響などのため、鍵となる物資や事象が異なる　日本列島では、人口集中を支える鍵となった物資は穀物と木材で、それらを大量に臨機に集め、使えることが肝要
- ・小泉龍人は、世界最初の都市を生んだ西アジアにおいて、一般集落から都市的集落を区別する必要十分条件として、都市計画・行政機能・祭祀施設の三つを列挙　都市誕生の引